

閉会挨拶（12月18日）

運輸総合研究所理事長の佐藤です。お疲れのところ恐縮ですが、今後の予定のお知らせの前に少しお時間を頂戴して、一言申し上げます。

まず、貴重なお話をして下さった辻村様、小嶋先生と山内所長、長時間にわたりご参加いただいた大勢の皆様、そして当研究所の活動をご支援いただいている日本財団に御礼を申し上げます。

さて、本日、ご講演いただいた観光庁 Visit Japan 大使の辻村様が大使にご就任されたのは 2009 年 5 月ですが、当時は Yokoso Japan 大使と呼ばれていました。そして、この Yokoso Japan 大使が誕生したのは、過去 2 回の NEXT インバウンドシリーズにご登壇いただいた李大使、横江大使がご就任された 2008 年 1 月でした。当時の大使任命趣旨を見つけたので、ご覧下さい。

当時は、資料の 1. にあるように、インバウンドを「2010 年までに 1,000 万人にする」ことが目標であり、資料の一番下にあるように、「インバウンドをあまり意識していない各分野の方々」に対して、インバウンドを「顧客として捉えるという気付きを与える」ことが必要とされた時代でした。ビフォア・コロナ時代のインバウンド 3,000 万人超えという状況は、全く想像できなかった時代であったわけです。

こうした時代にあって、資料の2.にあるように「外国人旅行者の受入体制に関する仕組みの構築」や「外国人に対する日本の魅力の発信」に「積極的な努力を積み重ねてこられた」Yokoso Japan／Visit Japan 大使の知見は、インバウンドが消滅した今日において、ウィズ・コロナ／アフター・コロナ時代のインバウンド政策を考えるに当たって、まさに必要とされていると私は思います。

運輸総研では、今後とも、運輸政策セミナーや NEXT インバウンドシリーズを活用して、ウィズ・コロナ／アフター・コロナ時代の観光の在り方について皆様と一緒に考えてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上です。この後、今後の予定のお知らせがあります。

本日は、最後までご視聴いただき、誠にありがとうございました。